

山形県村山市は12月からサムライ体験の受け付けを始める。同市は居合道発祥の地で、戦国時代に地元で生まれた創始者をまつる神社もある愛好者の聖地。地域資源を生かそうと協議を重ねてプログラムを作ってきた。国も武道ツーリズムを提唱しており、忍者体験のようなエンターテインメントとは違う本物の武道体験で、新たな聖地ができるかもしれない。

## 山形・村山市「居合道発祥の地」



真つすべに構えた真剣を振り下ろすと、畳筒がスパッと真つ二つに。村山市が今秋、居合振武館の道場で開いた体験会では、習ったばかりの参加者が相次ぎ試し斬りに成功。仙台市のフランス語教師、フィリップ・ブラツェさん(55)は「日本の文化を深く感じられる最高の体験。観光客に来てもらういいアイデアだ」と絶賛した。

「居合道発祥の地でサムライ体験」は2年がかりで準備してきた体験プログラムだ。基本の型を習い、試し斬りをする居合抜刀術サムライ体験」は1人1万2000円、地元特産のソバなどの昼食付き1日プランは同3万円など全4コースを用意した。

### 安全面など調整

地域資源をインバウンドに生かす市の検討会議でアイデアが浮上。会議

# サムライ体験で誘客

## 東奔北走



参加者で観光プラン作りだけに集客が難しいに携わるアイサイト(山形市)社長の馬場誠さん(58)は「発祥の地を世に発信できる」と考え、安全や指導者の確保など調整を進めてきた。講師は地元の林崎居合道伝承会の幹部と、抜刀道家の阿部吉宏氏。地元の居合道ではショー的な要素のある試し斬りはやらないが、「居合道の型

副市長も務めた経験から活性化の必要性は痛感しており、「海外を含めて多くの人に魅力を知ってほしい」と期待する。村山市のサムライ体験

## プログラム4コース ■ 武道を世界へ発信

は着替えに便利な面ファスナー付きの袴や模擬刀を用意している。それでも、各地の観光施設で人気の忍者体験のように手軽に参加するのは難しいが、「事故の恐れもある」、ある程度の金額を出してもいいと真剣に取り組む人を対象にする(村山市商工観光課)という。

国は東京五輪を見据えてスポーツツーリズムの振興に取り組むなかで武道ツーリズムを提唱している。スポーツ庁は「日本でしか体験できないスポーツ」と文化が融合した希少性の高いツーリズム」と定義。「観光事業者の関心も高く、各地の事例を世界へ発信していく」という。

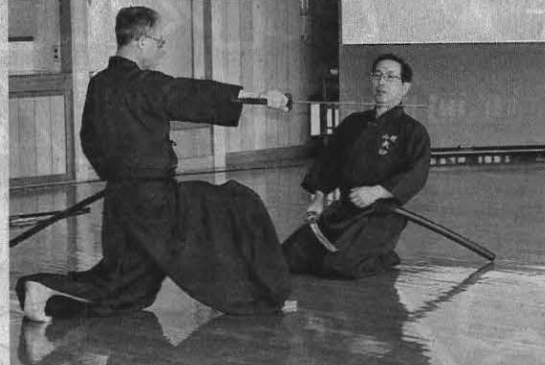
### 知名度はまだ

先進地の沖縄県は昨年、沖縄空手案内センターを設置。選任のコーディネーターが体験希望者を町の道場に紹介し、昨年度は354人が利用した。「なぎなたの聖地」といわれる兵庫県伊丹市は今年初めに紹介映像と体験プログラムを作成。合気道の開祖が修練し、合気神社がある茨城県笠間市も「海外から愛好者が多数訪れている」といい、さらなる情報発信を検討中だ。

もっとも、五輪種目になつた空手はともかく、「プログラムを作ったが実績はほとんどない(伊丹市)など、知名度向上は大きな課題。居合道プログラムを主導した馬場さんは「ここにしかない素材。5年、10年かければ必ず広がっていく」と期待している。



居合振武館で畳筒を試し斬りするフィリップさん(写真上)。林崎居合道伝承会会長の矢口良治六段(同下)らによる実演



(山形支局長 浅山章)